

平成 27 年度日本生理学会第 1 回理事会議事録 (案)

日 時：平成 27 年 3 月 20 日 (金) 13:00～16:30

場 所：神戸国際会議場 401

【出席者】

理事長 栗原 敏 (議長)

理 事 赤羽悟美、明間立雄、井上隆司、入來篤史、老木成稔、小川園子、加藤総夫、亀山正樹、久野みゆき、久場博司、久保義弘、鯉淵典之、小西真人、篠田陽、澁木克栄、白尾智明、多久和典子、當瀬規嗣、徳田雅明、富永真琴、藤井 聡、船橋利也、船橋 誠、前田正信、三木健寿、南沢 享、持田澄子、柚崎通介 (計 28 名)

監 事 高松 研

陪席者：伊佐正、浦野哲盟、岡田泰伸、岡村康司、倉智嘉久、佐久間康夫、関野祐子、高井 章、中島 昭、福田敦夫、藤山理恵、古谷和春、本間さと、丸中良典、八尾 寛、和田 真

【欠席者】

理 事：石川義弘、井本敬二、尾野恭一、大森治紀、岡野栄之、椛 秀人、竹森 重、鍋倉淳一、蒔田直昌、松井秀樹 (計 10 名)

監 事：川上順子

定数 39 名に対し、29 名の理事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

報告及び協議事項

1. 理事長挨拶

定刻となり開催する旨宣言された。

東日本大震災により開催取りやめとなった日本解剖学会との合同大会開催は念願であり、開催実現に尽力された岡村大会長に対し、謝意を伝えた。

議事進行へのご協力をお願いされた。

2. 庶務報告 (栗原理事長)

会員数が漸次増加傾向にあることが報告された。

3. 財務報告 (石川副理事長代理：栗原理事長)

平成 26 年度は会費納入率が上がったこと、科研費補助が得られ増収となったこと、またエデュケーター制度が始まり収入が増えた旨報告された。

高松監事より監査の実施、および決算書のとおり適正に資産管理が行われている旨報告された。

平成 27 年度予算(案)は特に質問等なく、承認された。

4. 編集・広報委員会報告 (多久和委員長)

1) 学会ホームページ(日本語版)の改定が完了し、会員へ 1 月 15 日の一斉配信にて周知した。

2) 日本生理学雑誌の季刊化について継続審議となっているが、会員への情報周知の役割を担うこと、当学会の財務状況の改善により平成 27 年度も年 6 回発行とする。

3) 4 月 11 日から開催される日本医学会総会 2015 にて、情報発信のスペースについて打診があり、当学会分を確保した。

申込期限が迫っていることもあり、理事長・副理事長に了解を得てポスターやサイネージを作成した。

5. JPS 編集委員会報告 (石川委員長代理：丸中委員)

- 1) 報告作成時点(平成 27 年 1 月)では、No.65 vol.1 まで刊行している。
- 2) 平成 26 年度 JPS への総投稿数は 223 であり、アジアからの投稿が主である。
Rejection rate は約 62%である。
また Impact Factor(IF)は 1.248 となり、回復してきている。
- 3) JPS 総説執筆・アンケートを実施した。集計結果を参考に IF を 2 以上に上げること、総説を増やすことを方針とし、活動することとする。
更にミニ総説を新設し、若手を含めて多数の総説を掲載したい。
- 4) 大会抄録集の abstract 引用も IF に反映されるので、JPS と併せて引用の検討を理事に呼びかけた。

6. 会員委員会報告（亀山委員長）

- 1) 若手会員の創設を検討するにあたり、アンケートを実施している(実施期間：平成 27 年 1 月から 3 月末)。
アンケートへの回答には、若手会員創設に反対する声も寄せらせている。
多くの方の意見を得るため、改めてアンケートへの協力を呼びかけた。
 - 2) 評議員資格の要件として「満 3 年以上正会員として在籍」していることがある。
従来は 3 年度分以上の年会費を支払っていることで要件を満たすとしていた。
平成 28 年度社員総会時の選考対象より、入会時点から選考を行なう社員総会時点までの在会期間を総計して 3 年以上の会員歴を有することとしたい。
 - 3) 臨時会員制度の新設は前回理事会で承認されており、平成 27 年度定時社員総会に諮る。
- 2) の厳密な在会期間については、公平性を保つためにも委員会内で改めて検討することとする。

7. 次期理事長候補推薦委員会報告（福田委員長）

平成 26 年 11 月 29 日に委員会を開催し、評議員から推薦のあった 3 名の第一次候補者について、提出資料を基に検討した結果、3 名とも次期理事長候補者として適任と判断した。
次期理事長候補推薦委員会より 2 名の候補者を加え、計 5 名を第二次候補者とし、12 月 9 日付で栗原理事長に推薦した。

8. 選挙管理委員会報告（明間委員長）

- 1) 次期理事長候補者選出選挙は第 1 回では得票数が選出規程に満たなかったため、決選投票を実施し、結果として投票を計 2 回実施した。
会員ページにログイン後投票するインターネット投票とした。
選挙人は平成 26 年度年会費納入済の評議員とし、投票をメールにて呼びかけた。メールアドレスの登録が無い選挙人へは、郵便にて投票の実施を案内した。
2 回に亘る選挙の結果、最終候補者として丸中良典氏を選出し、栗原理事長に報告した。

	投票期間	候補者数
第 1 回投票	平成 27 年 1 月 13 日－1 月 26 日	5 名
決戦投票	平成 27 年 2 月 12 日－2 月 26 日	2 名

- 2) 理事選挙規則および地区別理事定数に関する附則の改正については、前回理事会で承認されており、平成 27 年度定時社員総会に諮る。
- 3) 次期理事長選出規程 II-6 により理事会で審議のうえ、丸中良典氏を次期理事長に選出することを提案する。

3) については、最終候補者である丸中良典氏は理事ではないため、本来であれば社員総会で理事として選出し、次いで理事会で審議して次期理事長に選出することになっている。しかし次回理事会開催まで期間があくこと、そのために業務引継に差し支える恐れがあることを考慮し、平

成 27 年度定時社員総会で丸中良典氏が理事として選出される場合は、次期理事長に選出することとした。

9. 教育委員会報告（鯉淵委員長）

- 1) 長年にわたる生理学教育への貢献に対する大内一夫氏(カエル捕り名人)への感謝状授与を、平成 27 年度第 1 回定時社員総会時に行なう。
- 2) FAOPS2015 Education Workshop は FAOPS2019 開催に向けての布石となるものと考えている。そのため、本件について会員へ協力をお願いする。
- 3) 生理学会が出版している『MCQ 問題集』および『解剖生理学クリアブック』の改訂を現在行なっている。

10. 生理学エドゥケーター認定制度委員会（中島委員長）

- 1) 平成 26 年度の認定者は 251 名であり、平成 27 年 1 月下旬に認定証を発送した。認定証の内容に誤りが見られたため、業者負担で差替えを行なった。
- 2) 日本生理学雑誌へ、認定者一覧を掲載した。一覧はホームページへも掲載予定とする。
- 3) 教育プログラム受講時に提示するバーコードを、会員ページから各自ダウンロードできるようにシステムを更新した。

11. 学術・研究委員会（加藤委員長）

- 1) 第 92 回日本生理学会大会(第 92 回神戸大会)では、日本解剖学会学術委員会との合同企画として、大会 2 日目に A 会場にてシンポジウムを開催する。
このシンポジウムでは各学会から選出された日本学術会議、日本医学会連合、日本医学会用語管理委員会、日本医学雑誌編集者会議、日本脳科学関連学会連合、生物科学学会連合の評議員・委員が参加し、学会活動における意義を討論する。
- 2) 科学研究費助成事業(科研費)制度の変革や独立行政法人日本医療研究開発機構(AMED)発足による研究プロジェクト体制の変化等、学術支援体制が変わっている中、当学会の対応について討議を進めることとする。
- 3) 学術・研究委員会に職責委員を設置したことを再度確認する。

12. 他学会連携委員会（赤羽委員長）

第 92 回神戸大会では、大会企画シンポジウム(1)、委員会シンポジウム(3)、公募シンポジウム(4)を開催する。

また日本自律神経学会と、第 67 回日本自律神経学会総会で共催シンポジウムを開催した。

今後は連携学会を拡充し、共催シンポジウム等の企画充実化を図る。

13. 研究倫理委員会報告（椛委員長代理：小川委員）

- 1) 「生理学領域における動物実験に関する基本的指針」の一部改訂(案)を作成した。この改訂により、以下の 4 点が盛り込まれた基本的な指針となった。この基本的な指針は英語版にも盛り込んでいる。
 - ・現在の「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づいた適正な実験を行なうことを当学会からも会員に周知し、また求める。
 - ・学会や学術誌での発表にあたっては国内学を問わず、研究機関等が承認した実験であることを明示させる。
 - ・苦痛軽減のための麻酔薬の選択と使用には特段の配慮が必要であることを明記する。
 - ・指針の改定にあたっては、文部科学省の指針と齟齬が無いようにする。
- 2) 第 92 回神戸大会では当委員会推薦で、蔵田潔先生に教育講演「研究倫理と利益相反」を行なっていただく。また、日本解剖学会の倫理委員会と合同で、研究倫理シンポジウム「研究倫理の現状と課題」を会期中に開催する。

1) について特に質疑は無く、改訂は承認された。
改訂された指針は、当学会のホームページに掲載することとする。

14. 利益相反委員会報告（椛委員長代理：多久和委員）

第5回日本医学会分科会利益相反会議(平成26年11月28日)に椛委員長が出席し、当学会会員に連絡および周知すべき事項について資料を作成した。

15. 国際交流委員会報告（久保委員長）

- 1) オーストラリア生理学会大会(AuPS2014)にて、PSJ-AuPS シンポジウムを実施した。
講演者の相馬先生、久保先生には AuPS より旅費支援が与えられた。
AuPS とは当学会大会での PSJ-AuPS シンポジウムの企画・実施等、今後連携強化および交流深化を検討したい。
- 2) 第92回神戸大会にて日中合同シンポジウム、日韓合同シンポジウム及び日独合同シンポジウムを実施する。
- 3) FAOPS Congress2015(FAOPS2015)の事務局長 Suchinda Malaivijitnond 先生と、第92回神戸大会前に当学会栗原理事長、加藤副理事長、鍋倉 FAOPS2019 組織委員会委員長、久保国際交流委員会委員長が面談し、第92回神戸大会での宣伝活動の企画等について意見交換を行なった。
第92回神戸大会では、岡村大会長の厚意により FAOPS2015 宣伝ブース無料設置や、定時社員総会時と全体懇親会でのプレゼン時間を確保することができた。
また FAOPS President の Julie Chan 氏が FAOPS2019 を前に、第92回神戸大会へ参加される。
- 4) 韓国生理学会より、KPS2015 へ PSJ-KPS シンポジウム提案の依頼があり、当学会からは松岡達先生(福井大学 医学部 生理)を推薦した。
- 5) IUPS2017(リオデジャネイロ、ブラジル)の Plenary Lecture と Key note Lecture の推薦を求める Web サイトが現在開かれている。
- 6) 今後の国際交流については、FAOPS2019 の成功に向けて、これまで交流を深めてきている中国、韓国との関係を維持する。また、AuPS2015、FAOPS2015 で連携を強めているオーストラリア、タイとも交流を深め、アジア・オセアニアでの連携を強化したい。

16. 集会委員会（富永委員長）

- 1) 第95回大会(2018年開催)は大会長を検討中である。
 - 2) 第96回大会長の選任を FAOPS2019 組織委員会委員長に一任したところ、富永真琴先生を推薦された。
本来であれば第95回大会長から選出すべきであるが、第96回大会は国際大会である FAOPS2019 と同時開催であり、事前の周到な周知や FAOPS 運営側との調整等が必要となる。そのため、可及的速やかな第96回大会長の選出が求められるための措置である。
- 2) について、第96回大会長は満場一致で承認された。

17. 将来計画委員会報告（白尾委員長）

平成27年度第1回将来計画委員会を本理事会前に開催し、前回委員会での検討事項について若手の会運営委員会、男女共同参画推進委員会、集会委員会、国際交流委員会の進捗状況を確認した。

- 1) 若手の会運営委員会
ポストドク問題の深刻さを確認するために、アンケート等の実施検討を求めている。
しかし個人情報保護の観点から名簿管理が行えないと判断し、結果としてアンケート実施は現実的ではないとの回答を得た。
運営委員会の中には当学会非会員が含まれている。当該者の入会につながるよう、特別枠を設けることを検討して欲しいと希望があった。

特別枠の設定については将来計画委員会から、会員委員会へ検討することを希望する。

2) 男女共同参画推進委員会

評議員の女性比率引き上げのために、具体的な活動の提示を希望していたが、今回の評議員推薦では引き上げるよう努めたと報告を受けた。

今後は理事の女性比率引き上げのために、全国枠の導入を検討するよう希望があった。

3) 集会委員会

FAOPS2019 開催に向けて、それまでに開催される生理学会大会においてもアジアからの大会参加者を増やしたいと考えている。

アジアからの大会参加登録及び参加は現状でも可能だが、参加費や旅費といった金銭面での課題もあり、今後の検討事項としたい。

4) 国際交流委員会

FAOPS2019 開催に向けて、よりアジアとの連携を強化したいとの回答を得た。

2) について、理事選挙の際に全国枠を導入することで、理事の女性比率引き上げにどうつながるのか質疑があった。これに対し、男女共同参画推進委員会より推薦を受けた候補者が、全国から得票しやすくと考えられると白尾委員長が応答した。

全国枠の導入については慎重に検討すべきとの意見が出された。

18. 男女共同参画推進委員会報告（関野委員長）

1) 第 92 回神戸大会では、委員会シンポジウムを日本解剖学会と合同開催する。

より多くの聴衆を得るために、ランチョンセミナーの形態をとることとした。

また大会長のご厚意により、男女共同参画学協会連絡会シンポジウム時に発表したポスターを掲示する。

2) 生理学会女性研究者の会が発行している会報 NEWS LETTER に、「第 3 回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」結果報告書を寄稿した。

また男女共同参画推進委員会が開催する第 92 回神戸大会ランチョンセミナーのちらしに、生理学会女性研究者の会が主催するグループディナーのお知らせを掲載し、連携を図っている。

3) 産前産後休暇または育児休暇のために科研費未応募だった者を対象に、平成 27 年度科研費を募集中であることを一斉メール配信およびホームページで周知に努めた。

19. 賞選考委員会報告（松井委員長代理：三木委員）

1) 平成 26 年度日本生理学会奨励賞は選考の結果、2 名の受賞者を選出した。

2) 山田科学振興財団 2015 年度研究援助の候補として、3 名推薦した。

20. 入澤若手賞選考委員会（尾野委員長代理：井上委員）

前理事会にて心臓・循環系の研究を積極的に推薦するように求める意見があったため、10 月末から 12 月にかけて委員会で選考方法を検討した。

その結果、今回の選考は応募者を予め「心臓・循環」部門、「イオンチャンネル・トランスポーター」部門に分類し、部門ごとに審査することとした。

厳選な審査の結果、心臓・循環部門 3 名、イオンチャンネル・トランスポーター部門 2 名を選出した。

21. 入澤賞運営委員会（持田委員長）

平成 26 年度入澤宏・彩記念若手研究奨励賞(5 名)、入澤宏・彩記念 JPS 優秀論文賞、JPS 心臓・循環論文賞、入澤彩記念女性生理学者奨励賞の受賞者が報告された。

22. 生理学女性研究者の会運営委員会報告（藤山委員長）

1) 5 名の選考委員による厳正な審査の結果、第 5 回入澤彩賞受賞者を決定したことが報告された。

- 2) 日本生理学会のホームページで入澤彩氏に関する情報を閲覧できるよう前理事会で求めていたが、現在は当該ページへのリンクが張られ、会員が閲覧可能となっていることが報告された。

23. 若手の会運営委員会（和田委員長）

- 1) 第 92 回神戸大会では委員会企画シンポジウム「解剖学からみた脳の機能、生理学からみた脳の構造」を開催する。
- 2) サマースクールはこれまでは脳機能を主なテーマとしてきたが、今後は各臓器間の相互連関や、共通した研究手法といった幅広いテーマ設定を目指す。また運営体制の充実を図ることとする。
- 3) 生理学と社会のつながりを知ってもらうために、障害や疾患の基礎科学をテーマとしたサイエンスカフェの準備を進めている。初回は自閉症の基礎研究をテーマとして、平成 27 年 4 月 5 日に開催予定である。
- 4) ソーシャルメディア等の活用により、リアルタイム性を重視した広報および意見交換を今後も継続する。

24. 義援金配分委員会（八尾委員長）

東日本大震災(平成 23 年 3 月)の義援金を次の活動に配分した。

- 1) 東日本大震災被災三県に所属する会員のうち、第 91 回鹿児島大会参加費の返還(27 件)を行なった。
- 2) 第 46 回東北生理談話会(平成 26 年 10 月 25 日)の参加費返還を行なう。
また、東北生理談話会で演題発表する学生会員(東日本大震災被災三県内教育機関所属)に対し、日本生理学会年会費の半額補助を行なう。
- 3) 平成 26 年度東北地方会賞選考委員会により、東北日本生理科学奨励賞(3 名)、東北日本生理科学有志賞(3 名)の受賞者が選出され、副賞を授与した。

25. フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会（倉智委員長代理：古谷氏）

フィジオーム・システムバイオロジー分野の最近の動向について、フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会委員および関連研究者に調査を行なった。

調査により、主な意見として次の 3 点が出された。

- ①学術新興国であるアジア・オセアニア地域でも本分野の活性化が認められる
- ②本分野の基礎研究への支援や組織的な取り組みの推進という面では課題が残るが、統合的生命科学の研究成果が盛り込まれる方向で、創薬プロセスにかかわる ICH ガイドライン改訂の議論がなされている
- ③他分野との連携の重要性

26. 日本学術会議（河西連携委員代理：本間第二部会員）

- 1) マスタープラン 2014 に採択された「医療・創薬研究加速のための生体機能科学と計算生命科学の協同研究開発基盤の構築」は現在日本学術会議のホームページに掲載されており、日本生理学会のホームページからリンクをたどって閲覧可能となっている。
また、第 22 期日本学術会議(平成 23 年 10 月－平成 26 年 9 月)の報告も同様に、日本生理学会のホームページより、リンクをたどって閲覧可能である。
- 2) 第 23 期日本学術会議(平成 26 年 10 月－)の機能医科学分科会委員が決定した。
今期も引き続き、生理学研究者コミュニティの意見を研究・教育行政に反映できるよう活動する。

27. 日本医学会連合報告（加藤会員代表）

- 1) 学術団体の新法人として、一般社団法人日本医学会連合が平成 26 年 4 月に発足した。日本医学会連合は法人格を持ち、独立した組織である。日本医師会の一組織である日本医学会とは

異なる団体であることを確認した。

日本生理学会は、日本医学会では分科会と位置付けられ、日本医学会連合では会員である。

- 2) 日本医学会連合平成 26 年度臨時総会(平成 27 年 2 月 18 日)が開催され、平成 27 年度事業計画および予算について報告された。

28. 日本医学会用語委員会報告 (佐久間委員代理：栗原理事長)

- 1) 平成 26 年度日本医学会医学用語委員会(平成 26 年 12 月 19 日)が開催され、以下のことが話し合われた。
 - ・医学会医学用語辞典(Web 版)が一般公開された。掲載する用語を追加訂正する際には、分科会の用語集および Web 版用語辞典に準拠することを、投稿規定に盛り込むことが呼びかけられた。
 - ・国際疾病分類の改訂(平成 28 年予定)等、今後の対応について問題提起があった。
 - ・各分科会で用語をシンプルに統一することは困難で、検討を重ねる必要がある。また一般的に定着している言葉であっても、患者や家族の尊厳を傷つける恐れがある病名・病態を表現する用語についても検討課題とする。
- 2) 医学会医学用語辞典(Web 版)に掲載されている言葉のゆれについて会員から意見を募りたい。集約した意見を基に、かつてホームページで掲載していた生理学用語集の改訂を図り、公開したい。特に臨床との関連が重視される昨今、病名・病態の表現を他学会と調整する必要がある。

2) については、今後の検討課題とする。

29. IUPS 分科会報告 (御子柴 IUPS カウンシルメンバー代理：本間幹事)

- 1) 第 23 記日本学術会議 IUPS 分科会の設置が幹事会(平成 26 年 11 月)で承認された。日本生理学会との連携強化のため、国際化担当副理事長に分科会委員として参画いただき、IUPS2017(リオデジャネイロ)開催に備える。
- 2) 平成 27 年夏期に対面式の IUPS2017 合同委員会が開催される。日本からの意見を委員会時にプレゼンテーションできるように備える。

30. FAOPS 報告 (岡田前会長代理：栗原理事長)

- 1) FAOPS News Letter vol.21 が平成 26 年 12 月に発刊された。
- 2) 第 12 回アジア医学生生理学クイズ大会(Inter-Medical School Physiology Quiz :IMSPQ)が、マラヤ大学(Kuala Lumpur, Malaysia)で開催された。計 23 ヶ国から医学生 88 チームが参加した。

31. FAOPS2019 組織委員会報告 (鍋倉委員長代理：加藤委員)

- 1) FAOPS2019 組織委員会(平成 26 年 11 月 12 日)を開催した。議題について以下に報告する。
 - ・プログラム
FAOPS2019(平成 31 年 3 月 28 日-31 日)開催に向けて、プログラム委員会は第 92 回神戸大会終了後活動を本格化させる。
 - ・予算運用
予算を管理するための口座を開設した。
寄附の受付時期等については、検討事項とする。
寄附受付までの活動費用は、日本生理学会大会の積立金を当面使用する。
 - ・広報活動
日本生理学会ホームページでの広報活動を開始する。
FAOPS2015(バンコク大会)でも活発に行なう。同大会では日本ブースを無料設置してもらえたこととなった。これは第 92 回神戸大会にて、岡村大会長のご厚意でバンコク大会のブースを設置したことによる。

また同大会では、Japan Night の実施も開催される予定となっている。

・第 96 回日本生理学会大会長

FAOPS2019 と同時開催される大会長候補に、富永真琴先生を推薦した。

先ほど本理事会において大会長に承認された。

2) FAOPS2019 を成功に導くには、アジア各国からの多数参加が見込まれるバンコク大会への参加および緊密化が重要と見込んでいる。日本からの参加呼びかけを行ないたい。

また、日本生理学会でトラベルグラントを設けて、5 名程度派遣したい。

バンコク大会では現在 Young Scientist Awards(6 月 30 日締切)を募集しているので、周知の協力を依頼したい。

3) バンコク大会で FAOPS2019 の広報活動を行なうためには、概要等が決まっている必要があると考える。

Plenary Lecture の演者候補等を推薦してもらいたい。

また各国の生理学者との関係を強めたい。

2) について、日本生理学会ではトラベルグラントを設けることが承認された。

対象者は 5 名とし、一人当たり 5 万円を授与する。

32. 生物科学学会連合報告（小西連絡委員）

1) 新体制(2015-2016 年)が発足した。

2) ポスドク問題検討委員会は「生科連からの〈重要なお願ひ〉」を、文部科学省を始めとする関係各所に手渡した(平成 26 年 12 月)。

今後も改訂版を作成し、関係各所へ働きかけていくこととする。

3) 教科書問題検討委員会は、日本生物教育学会用語検討委員会の用語リストについて、連合に参加している 29 団体に検討依頼する。

また日本生物教育学会と生物科学学会連合との共同で、重要語のリストを作成し、文部科学省や教科書出版各社、大学入試センターに提出する。

33. 生物科学学会連合ポスドク問題検討委員会(篠田連絡委員)

1) 「生科連からの〈重要なお願ひ〉」の内容について、日本生理学会若手の会に意見を募集したところ、次の意見を得た。これらの意見は集約し、日本生理学会からの意見書として、生物科学学会連合ポスドク問題検討委員会に提出した。

・用いられる資料は最新版を参考にするべきである。

・国内のみならず、海外へのキャリアパスについての支援策も追加して欲しい。

2) 第 93 回日本生理学会大会(札幌大会)で海外へのキャリアパスに関するワークショップを実施したい。

2) について、ランチョンセミナーに準ずる形式でワークショップを開催することは、承認された。第 93 回大会長からは、前向きに検討するとの回答があった。経費については、参加する企業からの資金等も考えられるので、継続検討事項とする。

34. 日本脳科学関連学会連合報告（伊佐評議員）

1) 現在日本脳科学関連学会には 22 学協会、計 8 万人が所属する。第 3 回評議員会(平成 26 年 6 月)にて代表が選出された。伊佐評議員は脳科学将来構想委員会委員長を務める。

2) 脳科学委員会(文部科学省)に、平成 28 年度の概算要求に向けて、新しいプロジェクトを策定するにあたり、作業検討部会が開催されているので、研究課題について提言した。

・AMED が発足することにより、これまで文部科学省が主に活動してきた脳科学関連事業は、基本的に AMED に移行する。移行の際に働きかける項目を検討課題とする。

・医療に直接関係していない脳科学については、文部科学省で引き続き担当することを望む。該当する具体的な研究分野については今後検討する。

- ・第 92 回神戸大会時のシンポジウムにて、詳細を説明する。

35. 第 92 回日本生理学会大会準備状況報告（岡村大会長）

2 年半をかけて準備してきた第 92 回神戸大会は、平成 27 年 3 月 21 日（土）～23 日（月）に神戸コンベンションセンターで開催される。

- 1) 計画されていた規模を上回る総演題数が登録された。(シンポジウム演題総数 518 題、プレナリーレクチャー(5 題)を含む特別講演 9 題、一般ポスター演題 1,147 題、MD 研究者育成プログラムポスター 51 題(当日参加形式)、合同教育プログラム 15 演題、ランチョンセミナー 16 セミナー 21 講演)
- 2) 今大会の特徴は、1. 日本解剖学会との合同懇親会の開催、2. プログラム集にはファーストオーサーのみ掲載、3. MD 研究者育成プログラム、の計 3 点にある。
合同懇親会は当日受付も可能である。
ファーストオーサーを含む演者情報は、同大会ホームページ上に掲載しているアプリから閲覧可能である。
MD 研究者育成プログラムでは、学部生のポスター発表も行なわれる。
- 3) 理事会へ次の点を提案する。
 - ・大会長間の情報共有システムの構築
 - ・本大会のメリット・デメリットを分析し、合同大会の定期的開催を検討
 - ・学部生が参加するプログラムの継続実施
 - ・大会運営にかかる費用等についての議論

3) については今後の大会運営にも関わることであり、検討事項とする。集会委員会委員長からは、第 92 回神戸大会で受けた感想が新鮮なうちに各理事に意見を伺い、今後の参考としたいと回答があった。

36. 第 93 回日本生理学会大会準備状況報告（當瀬大会長）

- 1) 日程および会場は次のとおりとする。
日程 : 平成 28 年 3 月 22 日(火)–24 日(木)
会場 : 札幌コンベンションセンター
テーマ: 生きるしくみをみつめる ―新しい生理学の創造―
同年 3 月 21 日に開催する委員会および理事会の会場も同施設の使用を予定している。
- 2) 演題は、シンポジウム 60 テーマ程度、特別講演 10 演題、教育シンポジウム 10 テーマ、FAOPS シンポジウム、日中共同シンポジウム、日韓共同シンポジウム、フランス神経科学会との共催シンポジウム、ランチョンセミナーを予定している。
Plenary Lecture の演者として Donald Ingber 氏(Mechanobiology, Harvard Univ.)が決定した。
公募シンポジウム募集は 5 月以降開始する予定である。
- 3) 全体懇親会を 3 月 23 日(水)に開催を予定している。

37. 第 94 回日本生理学会大会準備状況報告（浦野大会長）

- 1) 日程および会場は次のとおりとする。
日程: 平成 29 年 3 月 28 日(火)–30 日(木)
会場: 浜松アクトシティコンgresセンター、研修交流センター、展示イベントホール
同年 3 月 27 日に委員会および理事会開催予定。
- 2) 全体懇親会を 3 月 29 日(水)に開催予定である。

38. その他

専門医制度が変更されることにより、基礎系学問の大学院進学率の低下が懸念されることについて、栗原理事長が一般社団法人日本専門医機構池田康夫理事長に確認した。平成 27 年 6 月をめぐ

に、大学等から寄せられた意見を参考にしたうえで、改めて日本専門医機構のホームページに詳細を掲載予定であると回答が得られた。

議題

1. 平成 26 年度第 2 回理事会議事録について
修正なく、承認された
2. 次期理事長の選出について
承認された
3. 定款の改定
承認されたため、平成 27 年度第 1 回定時社員総会に諮ることとする
4. 次期理事長選出規程の改定
承認されたため、平成 27 年度第 1 回定時社員総会に諮ることとする
5. 平成 26 年度決算報告/平成 27 年度予算
承認された
6. 評議員の選考
承認された
7. その他
特になし

以 上